

完了報告書（平成 24 年度）

提出者 平 田 知 久

提出年月日 2013 年 3 月 15 日

【プロジェクト名】

和文

メディア・インフラの技術社会史

英文

A Study on the Techno-Social History of Media Infrastructures

【メンバー構成】

研究代表者 平 田 知 久

幹事

メンバー

【ねらいと目的】（600 字程度）

西洋近代における公共圏という想像力に対して、「メディア技術」の存在が強い影響を与えてきたことは否定しがたい。その例として、書物を始め、新聞、郵便（とそれを制度的に支えた鉄道などの大量輸送システム）、ラジオやテレビ、（公益性を担うものとしての）電話、現代であればインターネットやパソコンあるいは携帯電話（とそれを支える電気）といったものが挙げられよう。

他方で、これらのメディア技術は、親密な関係や空間を生み出すものでもあった。例えば書物や手紙は、「母から子供への読み聞かせ」や「家庭内言語教育」、親密な人々同士の書簡の往復などの実践を生み、ラジオやテレビ、電話は、家庭空間へと進出してそのあり方に強い影響を与え、パソコンや携帯電話を介した親密な関係の形成は国境を越えて広がっている。

現代では、これらの技術は西洋を超えて全世界に普及しつつあるが、メディア技術によって喚起される親密圏と公共圏は、各国各地域において大きく異なり、研究代表者はそのことを、東アジア・東南アジアにおけるインターネットカフェの調査において確認してきた。それゆえ、現代の親密圏・公共圏を考えるに際し、①各国各地域におけるメディア技術の伝播についての時代的・地政学的考察と、②各国各地域で先行するメディアと新しく伝播したメディアの共存・対立関係の考察は避けて通れず、また、③各国各地域におけるメディア利用の分析から、メディア技術の社会的意味とそこに立ち現れる親密圏・公共圏の考察を行うことも必要だろう。

本研究課題「メディア・インフラの技術社会史」は、以上のような認識をもとに、広く国内外から研究者を招いて意見交換を行い、そこで得られた知見を英語プロシーディングスにて世に問うことを試みる企画である。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等
調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等
その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

活動としては、社会情報学会第1回大会において、国際若手研究者ワークショップを開催し、研究課題に関心を示した京都大学の若手研究者が、第5回次世代グローバルワークショップにおいて報告を行った（詳細は下記の通り）。

2012年9月16日

The 1st SSI (Society of Socio-Informatics) International Workshop for Young Researchers: Adoption of Social Networking

Organizer: Tomohisa Hirata

Chair: Leslie Tkach-Kawasaki, Tsukuba University

Discussant: Seiichiro Sakurai, Meiji Gakuin University

Presenters & Presentation Titles:

Cristina Miguel, University of Leeds, United Kingdom

The Transformation of Intimacy and Privacy through Social Networking Sites

Koen Leurs, Utrecht University, Netherlands

Digital Passages. Moroccan-Dutch Youths Performing Diaspora, Gender and Youth Cultural Identities across digital Space

Fan Mai, University of Virginia, USA

Straddle Two Worlds: The Use of Social Networking Sites among Chinese Expatriates in United States

Ya-Hui Hsu & Wenchan Fang, Ming Chuan University & National Taipei University, Taiwan

A Cross-National Empirical Study of Social Network Sites: Cognitive Absorption, Network Externalities, and TAM perspectives (Invited Presentation)

2012年11月6～7日

The 5th Next-Generation Global Workshop (Presentations)

Session 5: Environment

Junji Nishikawa, Kyoto University

Governing the City and the Infrastructure of Sunlight in Pre-war Japan

Session 7: Innovation and Social Change

Kazuya Ishii, Kyoto University

Bullet Train Plan as a Transnational Infrastructure

Session 8: Gender and Sexuality

Tomohisa Hirata

The Price of Using the Internet without Shame: 'Bar Girls' in Bangkok and the Internet Cafe as Infrastructure

Session 11: Migration

Sara Park, Kyoto University

Controlling "Illegal Migration" into Japan: Historical Origins of Alien Registration System in a "Homogeneous" Society

【成果の概要】（800 字程度）

01. 社会情報学会 Society of Socio-Informatics 第1回大会における国際若手英語ワークショップ International Workshop for Young Researchers 「ソーシャルネットワークの受容 Adoption of Social Networking」の開催とワーキングペーパーの刊行

1つの招待報告を除いて公募制／査読制をとったこのワークショップは、図らずも様々な出身の報告者（英語のネイティブ・スピーカーは1名もいない）と、国際色豊かな報告内容（すべての報告がトランス・ナショナルな枠組みを備えている）とに恵まれた、名実ともに International な Workshop となった。また、ワークショップのタイトルとしては、明示的に「インフラ」の文字を出さなかったものの、ソーシャルネットワークが様々な国々で、様々な人々のメディア・インフラとして機能している様が、報告者諸氏によって明らかにされた。また、各人の報告はワークショップでのディスカッションを踏まえた上で、報告者諸氏によって論文化され、ワーキングペーパーとして刊行された。

02. 第5回次世代グローバルワークショップ The 5th Next Generation Global Workshop における報告と「」

「メディア・インフラ」を主題として、報告者各人の研究テーマを拡張させるかたちで4つの英語報告を行った。その報告の過程で得られた、メディア・インフラを支える基本インフラ同士の社会的・経済的・歴史的な相互連関の考察、および国家の枠組みを規定しつつも同時にそれを超えるような傾向性をもつインフラのあり方の検討といった課題を踏まえた上で、報告メンバーが中心となって、西洋のインフラ技術に関する先行研究を批判的に摂取しつつ、アジア諸国におけるインフラの展開と現状を考察する「インフラ研究会」を発足させた。

【通信欄】